

仏エネルギー関係省庁委員会（２月２日開催） における決定の概要

1. スーパーフェニックスの放棄

実証炉スーパーフェニックスの放棄を確認。

使用済み燃料の取り出しとナトリウムの抜き出しには時間がかかる。1998年から2005年までかかると予想される。解体はその後になる。

2. フェニックスの再開

原型炉フェニックスは再開し、2004年まで運転する。これは、消滅処理の研究のためである。

3. 地下研究所

地下研に関しては、すぐには決定されない。特別委員会による議論の後になる。

4. 原子力規制当局の独立

原子力規制の独立した当局を創る。これにより推進と規制の機能を分離する。

仏エネルギー関係省庁委員会（２月２日）

出席者：ジョスパン首相

ストロス・カーン経済・財政・産業大臣

クリスチャン・ピエレ産業担当閣外大臣

クロード・アレーグル国民教育・研究・技術大臣

- 検討事項：①実証炉SPX（スーパーフェニックス）閉鎖の決定について
②実証炉SPX閉鎖に伴う社会・経済対策計画の発表について
③原型炉フェニックス炉の再開について
④廃棄物地下研究施設３候補地の決定延期、
及び補足調査の実施について
⑤原子力安全規制組織の再編について
⑥京都会議を踏まえた二酸化炭素対策に応じたエネルギー源の
多様化について